

病院長のご挨拶

皆さまには、常日頃より患者さんのご紹介や在宅医療、移行期医療といった医療連携において、多大なご支援とご協力を頂いております。さらに、昨今のCOVID-19への対応におきまして、医療連携の重要性を再認識し、皆さまのご支援に感謝している次第です。ありがとうございます。



病院長 川田 博昭

皆さまご承知のように、流行の第3波（第4波ともいうようですが）到来後には、小児のCOVID-19感染者は、特に10歳代の陽性例が幾分増加したとはいえ、成人に比べ非常に少なく、重症者は殆どおられません。そのなかで、当センターは小児のCOVID-19陽性者の受け入れ病床を確保し、診療してきましたが、大阪府（保健所）が重症陽性者と認定した患者さんのみを診療し、周産期・小児期の専門病院としての今までどおりの診療を維持することにも注力してきました。他院からの転院患者さんを含めた小児陽性患者のみならず、大阪府のCOVID-19重症者用病床のひっ迫時には成人陽性患者の入院診療を行いました。米国の小児専門病院で起こったような小児陽性入院患者数の増大やクラスター発生による集中治療室の閉鎖などを招くことはありませんでした。これは、前述したようにCOVID-19陽性の小児患者さんが少なかつただけでなく、地域の医療機関の皆さまが、軽症、中等症の陽性小児患者の（入院）診療を積極的に行ってくださったからだと、深く感謝している次第です。ありがとうございます。

一方、これまでお伝えしてきたとおり、在宅医療の推進、地域診療情報連携システム（南大阪MOCOネット）を軸とした移行期医療の推進、大阪府より業務委託された移行期医療支援センターの業務としての府内の移行期医療体制の確立を皆さまのご協力ですすめています。当センターはCOVID-19流行下で今までどおりの診療を維持することにも注力してきたと申しましたが、昨年12月には大阪府より二次救急告示医療機関に認定されたことをお伝えします。中毒、熱傷、多発外傷以外の重症救急患者さんのみならず二次救急患者さんの診療も、積極的に、責任をもって担当させていただきます。

COVID-19の終息は、ワクチン接種が始まったとはいえ、当初から言われていたようにあと1年はかかるかと思えます。COVID-19において医療連携の重要性を再認識し、これまでどおり（これまで以上に）、皆さまと一緒によりよい医療を推進する所存でございます。皆さまのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

人事異動 (2021年4月1日付) 看護部長 ▶ 宮川 祐三子

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域と連携して、母子保健を充実させます。
- 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。

脊髄性筋萎縮症の遺伝子治療が可能になりました！

小児神経科には「発達が遅れている？」という主訴でご紹介いただくことをよく経験します。その原因と程度はさまざまですが、知能が正常で運動発達が遅れている場合は神経・筋疾患を疑います。

最近、神経・筋疾患のひとつである脊髄性筋萎縮症が薬剤で治療可能になりました。この病気は脊髄前角の運動ニューロンの障害が原因で筋肉がうまく働かなくなり、全身に筋力の低下が起こります。

近年、この病気の原因遺伝子（SMN 遺伝子）に対して核酸治療薬あるいは遺伝子治療薬が臨床使用できるようになりました。これまでは一生人工呼吸器を装着して寝たきり状態であった患者さんが、この治療で普通に生活することが望めるようになります。



小児神経科のスタッフは全員が♥をもって治療しています。

小児神経科スタッフ

当センターでは脊髄性筋萎縮症の遺伝子治療経験は豊富です。最大の効果を得るためには早期診断、早期治療が重要です。

筋緊張低下（体が柔らかく、ぐにゃぐにゃしているように感じる状態）の小児を診察したときには、「しばらく経過を觀みましょう」ではなく、当センターにすぐにご紹介ください。

（小児神経科 主任部長 鈴木保宏）

2016年度より、手術を受ける患者さん・ご家族を対象とし、手術室看護師が外来を担当しています。

この外来では、患者さん・ご家族の不安や恐怖を軽減するために、実際に手術室で使用するモニターやマスクに予め触れてもらい、当日の流れについてブックを用いてプレパレーションを実施しています。

また、患者さん・ご家族が手術や麻酔に対する不安や恐怖を表出することができる場になるようにしています。その中でも手術に対して不安や恐怖が強く、入室することが困難であると考えられる患者さんの場合、手術室見学ツアー、子どもの様子に合わせて保護者同伴入室の選択、また麻酔導入アプリを使用し、麻酔導入を行っています。これらの入室方法を決定する上で他職種との連携は必須であり、病棟看護師・麻酔科医師・ホスピタルプレイ士と共に手術室への入室方法を検討しています。

今後も手術看護外来を通して、他職種の方と連携を図ることにより、患者さん・ご家族に満足していただける周手術期看護に繋げていきたいと思っております。今後ともよろしくご依頼申し上げます。

（術前術後・プレパレーション係）



子どもの医療スペシャリストによるころ・発達子どもドック（通称：MOCOドック）をはじめます

当センターでは、開設以来さまざまな疾患の子どもたちの成長・発達を診療し、疾患や発達段階にあわせた育ちへのアドバイスを行ってきました。発達にかかわる複数の専門職が在籍しており、様々なお子さんへのアドバイスは好評で、継続して相談に来られる方が多数おられます。

このたび、今までに多くのお子さんを診て蓄積している経験をもとに、発達をみる専門職が集結し、

子どもの医療スペシャリストによるころ・発達子どもドック（通称：MOCOドック） を開設しました。

対象は当センターで出生され、継続した医療を必要とされなかったお子さんです。満1歳の時に、お子さんの「育ち」「できる」を見極め、今のお子さんに望まれる子育てのコツをアドバイスいたします。

ご興味がある方、もしくはドックを受けたい、という方は、MOCOドック担当 mocodock@wch.opho.jp までお問い合わせください。



RST (Respiratory Support Team：呼吸サポートチーム) ができました



呼吸器・アレルギー科、集中治療科、新生児科、病棟看護師、臨床工学技士、理学療法士等で構成される診療チームです。

センター内の新たな診療チームとしてRST（呼吸サポートチーム）ができました。当センターには様々な基礎疾患を背景に呼吸の問題を抱える子どもが多数入院されています。また在宅人工呼吸器を使用中の子どもが100名以上通院されています。

今までセンター内の呼吸に関する問題には、急性期は集中治療科、慢性期は呼吸器・アレルギー科、人工呼吸器の問題はMEセンターが中心となり対応していましたが、より多角的に、総合的にまた継続的に対応していくチーム医療の必要性を感じていました。

RSTはその活動の目的を

- ① 病院内での適切な人工呼吸管理
- ② 呼吸療法の標準化
- ③ 病院スタッフへの呼吸療法に関する教育としていきます。



呼吸に関係する情報の共有をチーム内で積極的に行い、よりよい医療を提供できるように取り組んでまいります。

“つながる” 胎児エコーみらいの会 WEB開催しています

当センターでの地域医療連携の企画として2018年から行ってきました“つながる”胎児エコーみらいの会は、新型コロナウイルス感染のパンデミックにより、2020年6月からWEB開催に切り替わりましたのでご報告します。

遠隔配信にすることで、当センターに来る時間も節約され、遠方の方も参加しやすいというメリットを最大限に生かし、参加して下さった皆さまと質問などのやり取りを通じて、“つながり”を継続したいと思います。

皆さまと共に、本勉強会を盛り上げていきたいと考えていますので、今後ともよろしく願いいたします。



本会の受信を希望される方は taiji-j@wch.opho.jp までご連絡ください。詳細についてご案内いたします。



医療機関の皆さまに当センターを知っていただくことを目的に開催しています。ご参加をお待ちしております。



【対象】 医療関係者 【時間】 17時45分～19時00分 【参加費】 無料
 【事前申込】 必要 各開催2日前までに下記アドレスに以下の項目を明記のうえ、お申込みください。

・受講希望日 ・職種 ・所属先 ・参加者名(フリガナ)

※大阪府医師会生涯教育研修システム1単位に認定されます。ご希望の方は以下の項目についてもご記入ください。

・チケット番号(地区番号2桁+医籍番号6桁) ・所属郡市区等医師会名

【申込先】 大阪母子医療センター 患者支援センター Email: chiren@wch.opho.jp

お申込みいただいたメールアドレスに開催前日までに参加 URL をお送りします。



日程	テーマ	担当部署	講師
2021年 5月26日(水)	母子医療センターから発信した小児心臓手術	心臓血管外科	盤井 成光
6月2日(水)	拡大新生児マスキング検査について	臨床検査部門	位田 忍 野崎 昌俊 木水 友一 藤田 宏
7月15日(木)	小児難聴・気道疾患 ～当科での取り組み～	耳鼻咽喉科	岡崎 鈴代
8月19日(木)	抗菌薬の適正使用	感染症科	野崎 昌俊 浅原 章裕
9月30日(木)	子どもの構音発達と口蓋裂の言語治療	口腔外科	井上 直子
10月14日(木)	頭部外傷	脳神経外科	山田 淳二
11月10日(水)	小児慢性心不全の緩和ケア	小児循環器科	森 雅啓
12月9日(木)	小児の睡眠時無呼吸	呼吸器・アレルギー科	錦戸 知喜
2022年 1月5日(水)	遺伝カウンセリングと遺伝カウンセラー	遺伝診療科	松田 圭子
2月3日(木)	小児のてんかん ～診断と治療～	小児神経科	柳原 恵子
3月3日(木)	小児期発症疾患に対する小児婦人科の診察	小児婦人科	川口 晴菜

第1回 大阪移行期医療研修会「大阪における先天性心疾患の移行期医療を考える！」を開催しました



3月12日(金)に小児診療科と成人診療科の仲間作りと移行期医療に必要不可欠な自律・自立支援を知ってもらう機会とすることを目的に、第1回 大阪移行期医療研修会をオンラインで開催しました。

移行期医療・小児期医療・成人期医療・看護の立場からの講演があり、循環器医療に携わる多くの医療関係者の参加がありました。

<主催> 大阪府移行期医療支援センター <後援> 大阪府医師会・大阪小児科医会・大阪府看護協会

次回は、5月15日(土)15:00～17:00

「大阪における成人ダウン症患者の移行期医療を考える！」をオンラインで開催します。参加希望の方は、大阪府移行期医療支援センターのホームページから事前登録ください。



交通のご案内



診察時間：平日 9時～17時30分
 予約受付時間：平日 9時～19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター 患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

【初診専用】 TEL: 0725-56-9890 (直通)

FAX: 0725-56-5605

【その他】 TEL: 0725-55-3113 (直通)

FAX: 0725-56-7785

【医師相談窓口】 E-mail: chiren@wch.opho.jp

医療者対象
 ホットライン
 (※24時間受付直通)

PICUホットライン

☎ 0725-56-1070

小児がん・白血病
 ホットライン

☎ 0725-57-7677

心疾患ホットライン

☎ 0725-56-3833

この広報誌に関するご意見・ご要望は FAXにて患者支援センターにお寄せください。